

「チュラロンコーン大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学経済学部・研究科4年 栽松 豪

このサマースクールに応募した理由として、タイの大学生との交流を通して、彼らの考えを知り、自分の将来を考える上で刺激を得たいという考えがありました。私は小さいころから、ただ漠然と海外に興味があり、大学に入ってからタイを旅行する機会は二度ありました。しかし、今回は同世代の人との交流とタイ語・タイ文化の勉強を通して、旅行では得ることができないものを得ようとプログラムに参加させていただきました。

このプログラムは、その目的を十分達成できるくらい密度の濃いものであったと思います。日本語専攻のタイの学生と接する機会がたくさんあり、お互いに積極的に関わることができました。また日本文化について共同発表を行ったグループの人達とは、渡航前からSNSを通して発表に関するやりとりをしていたため、一緒に過ごした時間は短くても、親密な関係になれたと思っています。また、出会った学生のほとんどが日本語専攻ということもあって、日本に留学に来る予定の人も多くいました。そのため、これからも交流を続けられ、さらに日本文化について紹介する機会があるということで、このプログラムの意図するものが帰国後も続くこととなり、参加者としてうれしく思います。

そしてまた、このプログラムは、日本文化を紹介するだけで終わらず、タイについて私が以前に増して興味を持つきっかけにもなりました。その要因としては、タイの文化に関する講義もそうですが、それよりも出会った人たちに抛るところが大きいと思います。日本人とここがこう違うのだと明示することはできませんが、今回出会った人たちに魅力的な方が多いと感じたのも、どこかタイ人、もっと正確に述べるとチュラロンコーン大学の学生・関係者に特有の雰囲気というものがあり、私がそれに惹かれたからだと思います。雰囲気という抽象的なものしか掴めず、「交流を通して彼らの考えを知る」には2週間は短すぎたと言うこともできますが、私は十分に意義があったと思っています。少なくともこのプログラムのおかげで、もう一度タイを訪れたい、機会があれば留学したいという考えを持つに至りました。また、タイ語の講義は、基礎を中心に扱ってくれたことで、帰国後のタイ語学習の継続を容易にしてくれるものであり良かったと思います。

このプログラムに参加して、以前より持っていた、海外で働きたいという思いがより強いものになりました。また、今までは考えていなかった留学という選択肢も増えました。そして何より、とても楽しい経験をさせてもらうことができました。